

## 総合部門

### 読書指導の研究

— 学習指導・生活指導との関連において —

#### I. 研究目的

本研究は昨年度からの継続研究である。従ってその目的とするところは昨年の研究協議会すでに述べ、また紀要第3集にも収録され、今年の研究協議会でも簡単に触れた。従って今回は多くは述べない。ただそれを再確認する意味において簡単に述べてみたい。本校の中心研究題目たる基礎教育とは、生活の主体的な基本的な能力を培うものであり、それには学習指導と生活指導の両面が考えられる。ところが、学習指導においては生活の基礎をなす、ものの考え方、人間の生き方という問題に欠けている面がある。そこに生活指導の重要さが浮び上ってくるわけである。読書指導は学習指導と生活指導の媒体をなすものであり、学習指導と生活指導両面の基礎をなす面を持っている。従って、読書指導において基礎教育を考え、また一方、基礎教育において読書指導の問題を考えなければならない。われわれは以上のような意味において読書指導を考え、昨年は主として学習指導との関連において読書指導の在り方を探究した。しかし始めての試みでもあり、調査の方に重点が置かれた。とはいえる、不満足ながらも一応の成果を収めたものと思っている。

今年は昨年の成果をもとにして、昨年の研究を発展拡充して、学習指導との関連における読書指導に、生活指導との関連におけるそれを加味して、いよいよ実践に乗り出したのである。そこで取上げた問題は、基本的には昨年と異なるものではないが、次の3点である。

- (1) 図書館を中心として行う読書指導
- (2) 各教科の学習指導と関連して行う読書指導
- (3) ホーム・ルーム担任が中心となって行う読書指導

#### II. 研究方法

上述の問題に対し今年度はとくに次の方法を選んだ。

- (1)(4) 図書の分類番号による0～9の全域にわたる、換言するならば全教科にわたる、ないしは学習指導・生活指導両面にわたる「良書百選」の方法で全生徒に良書を推薦しその効果をたしかめる。

かめる。

- (2) 「読書サークル」を組織し、読書会を通して生徒の読書生活を指導し、その効果を比較検討する。
- (2)(1) 国語科における「古典の鑑賞」（中学3年）について昨年度の指導を継続発展させ、その効果を検討する。
- (2) 理科の学習指導において、授業中に参考図書として紹介しておいた書物が学校図書館でどの程度利用されているかを調査し、検討する。
- (3) 読書不振児を抽出して読書指導を行い、その効果を検討する。

#### III. 研究経過の概要

昨年は研究的な面に相当な時間数をかけたのに対し、今年は実践的な面に重きを置いたが、そのあらましは次の通りである。

- (1) 文献的研究—従来の理論的ならびに実証的な研究ができるだけ広範囲に集め詳細に検討した。教官室の一隅に書架を設け資料が常置されている。
- (2) 調査、研究、指導についての内容と方法について、教育学部の研究委員である教授、助教授の指導をおおぎ、数回にわたって討議した。ここでは各教科の学習指導、生活指導と読書指導との関連性がとくに問題となり、その重要性が認められた。又読書不適応が学習不適応や人格的な不適応と関係が深いことが強調される。

#### IV. 現在までの成果

##### 1. 「良書百選の効果の検討」

昨年の結果に鑑み、読書指導の一方法として「良書百選」による図書の推薦は特に中学校において効果があると考えられる。昨年度は文学方面に、しかも中学校1、2年向・中学校3年、高等学校1年向・高等学校2、3年向と三つに区切った。今年は中学校向、高等学校向の二つとし、文学以外のものに重点を置き、各教科担任において、基本図書目録にあり、しかも本校の図書館にあるものに基本線を置いて選んでもらい、

## 共同研究

それに、昨年よく読まれた文学関係のものを加え、合計100冊とした。これをプリントして夏休前に学級担任を通して、夏休みの過し方と関連づけて推薦した。

9月中旬の、中学生に対する調査の結果を集計したのが別表である。この表からいえることは、17「キュリー夫人伝」、23「野口英世」のような伝記ものを多く読むことがわかる。又2「ギリシャ・ローマ神話」、6「聖書」にも比較的興味を持つこと、あるいは、いたましい5「原爆の子」も読まれている。更に、未知な土地への知識、興味を求めて12「世界の国々」、13「わが国土」を読んでいる。

文学関係では、内容からくることは勿論だが、映画、放送劇等の影響も手伝ってか、61「坊っちゃん」から67の「二十四の瞳」までが多く読まれ、そのことは93「にんじん」にもいえるものと思う。又空想的、冒險的な夢を抱かせる、84「宝島」、92「ガリヴァ旅行記」あるいは95「ドン・キホーテ」を多く読んでいる。その他、国語の教科書に出てきた関係からか72「一房のぶどう」、80「くもの糸」を読んだものと思われるも

のもある。

合計のところでわかるように、男子より女子の方が読書意欲が旺盛であると思われる。しかし文学以外の計では男女差がないので、結局文学方面において女子の方が男子よりも読書量が多いといえる。理数科の書物について女子の方が男子よりも読まないといわれるが、この表の男女差が認められないことからも、指導のいかんによって女子にも理数科系への読書意欲を旺盛にできるものと思う。

総じて、2年3年については文学書は昨年に推薦すみであるとはいへ、推薦図書が図書館に備え付けてある関係からも、推薦良書100冊について1人当たり18冊弱読まれていること、又新しく約50日間に1人当たり3冊強読まれたということは、企図したことが一応達成されたものと思う。

去る10月22日に全国学校図書館協議会より児童、生徒の必読書が発表された。もちろん完全なものではないが、それも参考にし、この表の結果にもとづきもっと完全な「良書」に近づきたいと思っている。

### 良書百選（中学）

書名	著者	後・合計	在籍生徒数					
			一男 46	一女 43	二男 52	二女 46	三男 54	三女 53
<b>哲学・宗教(1)</b>								
1 世界の思想家	串田孫一	後計 1	—	—	—	—	—	— 1
2 ギリシャ・ローマ神話	ブルフィンチ	後計 3	2 3	1 3	2 15	5 18	1 14	— 15 68
3 世界神話物語	与田準一	後計 2	—	2 5	2 5	— 6	— 8	5 26
4 きけわだつみの声	(戦没学生の手記)	後計 —	—	—	—	— 1	1 2	1 3
5 原爆の子	長田新	後計 5	2 5	1 8	1 13	6 9	1 16	12 56
6 聖書		後計 2	1 4	3 9	1 4	3 11	4 14	13 44
7 心に太陽をもて	山本有三	後計 9	2 5	4 11	2 8	1 5	— 17	9 55
8 世界の宗教	大久保幸次	後計 2	1 —	—	1 1	1 1	—	3 4
9 考えること生きること	古谷綱武	後計 —	—	— 1	2 2	1 1	1 1	4 5
10 エルサレムの丘	小出省吾	後計 2	1 —	— 1	2 4	—	1 10	4 17
11 ヨルダンの流	小出省吾	後計 1	— 2	— 1	1 1	1 1	— 1	2 7

読書指導の研究

書名	著者	後・合計	在籍生徒数						計 294
			男 46	女 43	男 52	女 46	男 54	女 53	

歴史・地誌(2)

12 世界の国々	国民図書刊行会	後計	8 11	2 5	3 8	1 6	2 18	1 17	17 65
13 わが国土	国民図書刊行会	後計	5 8	3 9	2 16	— 11	2 18	2 16	14 78
14 世界の子ども	平凡社	後計	— 1	3 6	2 4	1 4	— 11	2 10	8 36
15 繼方風土記	平凡社	後計	2 2	1 2	— 6	1 3	— 11	— 13	4 37
16 人間の歴史	イリン	後計	2 4	1 3	3 7	2 6	3 8	2 10	13 38
17 キュリー夫人伝	エーヴ・キュリー	後計	3 8	7 24	1 12	3 23	3 20	3 33	20 120
18 マルコ・ポーロ旅行記	中沢公平	後計	2 6	— 5	3 8	2 8	1 15	1 8	9 50
19 マハトマ・ガンジー	蟻山芳郎	後計	1 3	— 3	— 4	— 2	— 3	1 10	2 25
20 黄河の水	鳥山喜一	後計	— —	— —	2 3	1 1	— 1	— —	3 5
21 大昔の人の生活	和島誠一	後計	— 1	— 4	— 5	1 5	1 7	2 7	4 29
22 世界の歴史	毎日新聞社	後計	2 4	— 1	2 4	— 3	4 5	— 1	8 18
23 野口英世	高山毅	後計	5 23	2 24	2 25	4 26	4 21	4 28	21 147

社会(3)

24 人間の尊さを守ろう	吉野源三郎	後計	— —	— —	— 2	— —	— 1	— —	— 3
25 民主主義のはなし	戒能通孝	後計	2 2	— —	— 1	1 1	— 3	2 2	5 9
26 日本の村	宮本常一	後計	1 3	1 2	1 2	1 2	1 1	— 2	5 12
27 子供の暦	児童文学者協会	後計	— —	— 1	— 1	— —	— —	— —	— 1
28 なぞとことわざ	柳田国男	後計	— —	— —	— 1	— —	— 3	— 5	— 9

自然科学・その他(4.5.6)

29 化学繊維	井本稔	後計	— 1	1 1	— 2	1 1	— —	— —	2 5
30 海流の話	日高孝次	後計	— 3	— 1	— 4	— 1	— 7	— 3	— 19
31 雪の話	中谷宇吉郎	後計	— 1	— 1	— —	1 3	— 3	— 3	— 11

## 共同研究

書名	著者	後・合計	在籍生徒数						計 294
			一男 46	二女 43	三男 52	二女 46	三男 54	三女 53	
32 宇宙	鎌木政岐	後計	3 11	— 3	1 3	1 6	2 6	— 6	7 35
33 数に語らせる	増山元三郎	後計	—	1 1	—	—	— 4	—	— 15
34 電燈の話	小林秋男	後計	—	1 6	— 2	1 1	1 3	— 1	3 13
35 蚊のない国	細井輝彦	後計	1 3	2 3	1 3	1 1	1 3	— 4	6 17
36 星座と伝説	山本一清	後計	1 2	2 7	1 7	2 7	1 5	— 9	7 37
37 ものがたり科学史	大野三郎	後計	—	— 1	—	2 3	— 2	1 1	3 7
38 世界の科学者	矢島祐利	後計	2 3	— 2	—	1 1	— 4	— 4	3 12
39 日本の科学者	篠島喜人	後計	—	— 1	— 1	1 1	— 5	— 2	1 10
40 化学の学校	オストヴァルト	後計	— 1	—	— 1	—	— 4	— 2	— 8
41 おもしろい地球の化学	フェルスマン	後計	— 1	—	— 1	— 1	— 2	— 1	— 6
42 理科の学校化石	井尻正二他	後計	— 1	—	— 4	— 2	— 7	— 2	1 16
43 ろうそく物語	ファラデー	後計	— 1	— 1	—	— 2	1 3	— 2	1 9
44 原子力の話	佐々木宗雄他	後計	2 4	— 1	— 1	1 1	1 8	1 4	5 19
45 渡り鳥	内田清之助	後計	2 2	— 4	2 5	1 4	— 5	— 4	5 24
46 日本動物記	今西錦司	後計	2 3	—	1 2	2 2	— 4	—	5 11
47 百万人の数学	ホグベン	後計	—	2 4	1 3	1 1	1 8	—	5 16
48 昆虫記	ファーブル	後計	3 7	— 5	1 7	1 4	1 10	— 5	6 38
49 ビーグル号航海記	ダーウィン	後計	— 4	—	—	— 1	— 3	— 2	— 10
50 洗濯の科学	菱山衡平	後計	—	— 2	—	—	— 1	—	— 3
51 洪水の話	安芸皎一	後計	—	—	1 3	— 1	1 4	— 2	2 10
52 きものとせんい	小川安明	後計	1 2	— 2	— 1	2 3	— 5	—	3 13
芸術・語学(7.8)									
53 エヴェレストをめざして	John Hunt	後計	—	—	1 4	1 1	1 3	— 3	3 11

読書指導の研究

書名	著者	後・合計	在籍生徒数						計 294
			男 46	女 43	男 52	女 46	男 54	女 53	
54 ピアノの日記	大野敏子	後計	—	1 1	—	— 4	— 2	1 7	2 14
55 続ピアノの日記	大野敏子	後計	—	1 1	—	— 2	—	— 4	1 7
56 あおぐ感激の日章旗	南部良平	後計	— 1	—	— 2	1 1	— 2	—	1 6
57 エヴェレスト登攀記	ミショケヌ・モラン	後計	— 3	—	— 2	1 1	1 3	—	2 9
58 登山教室	海野忠治	後計	— 1	—	— 1	1 1	1 4	—	2 7
59 雪に生きる	猪谷六合雄	後計	—	—	—	—	— 2	— 1	— 3
60 ことばの四季	金田一春彦	後計	—	—	—	— 2	1 2	— 3	1 7
文学(9)	文学書以外の小計	後計	60 158	34 153	44 219	63 216	44 319	31 321	276 1,386
(日本文学)									
61 坊っちゃん	夏目漱石	後計	8 22	12 21	5 38	8 33	3 40	7 45	43 199
62 三四郎	夏目漱石	後計	4 8	5 6	8 16	10 18	3 18	3 18	33 84
63 路傍の石	山本有三	後計	2 5	4 12	3 18	— 17	3 28	2 39	14 119
64 真実一路	山本有三	後計	1 2	— 6	2 6	4 12	3 19	1 21	11 66
65 次郎物語	下村湖人	後・計	3 19	3 20	2 19	6 15	3 35	4 35	21 143
66 山椒太夫・高瀬舟	森鷗外	後計	1 2	1 11	10 24	12 29	3 39	3 46	30 151
67 二十四のひとみ	壺井栄	後計	4 13	1 18	6 20	5 26	1 35	2 45	19 157
68 たけくらべ・にごりえ	樋口一葉	後計	2 4	4 10	1 5	6 21	4 19	10 34	27 93
69 鼻	芥川竜之介	後計	— 2	1 5	5 17	4 24	3 28	1 29	14 105
70 風の又三郎	宮沢賢治	後計	2 11	3 9	3 18	2 18	1 18	2 24	13 98
71 啄木歌集	石川啄木	後計	1 1	— 1	1 4	1 6	1 16	1 13	5 41
72 一房のぶどう	有島武郎	後計	11 12	13 13	1 28	5 36	1 47	4 44	35 180
73 破戒	島崎藤村	後計	1 2	—	7 11	8 14	2 11	7 27	25 65
74 ビルマの堅琴	竹山道雄	後計	1 2	— 5	— 1	3 11	4 10	2 14	10 43

## 共同研究

書名	著者	後・合計	在籍生徒数						計 294
			一男 46	一女 43	二男 52	二女 46	三男 54	三女 53	
75 夜あけ朝あけ	住井すえ	後計	1 1	— 2	— 2	— 5	— 4	— 7	1 21
76 非凡なる凡人	国木田独歩	後計	2 2	2 4	4 33	5 28	2 17	2 39	17 123
77 正義派	志賀直哉	後計	1 1	— —	— —	1 3	— 4	— 5	2 13
78 愛と死	武者小路実篤	後計	1 1	— —	1 2	1 3	1 5	— 6	4 17
79 少年の日	坪田譲治	後計	1 2	— —	— 1	— —	— 1	2 5	3 9
80 くもの糸	芥川竜之介	後計	1 6	2 9	2 11	2 12	9 39	15 48	31 125

## (外国文学)

81 トム・ソーヤの冒険	M. トウェン	後計	4 17	6 19	— 28	— 19	1 34	— 28	11 145
82 ジェン・エア	シャーロット・ブロンテ	後計	— 2	7 9	— 1	1 12	1 5	2 28	11 57
83 若草物語	オルコット	後計	3 12	9 30	— 10	6 32	1 14	3 44	22 142
84 宝島	スティヴィンソン	後計	4 19	1 16	2 31	6 19	2 33	1 29	16 147
85 レ・ミゼラブル	ユートー	後計	2 5	2 6	— 1	1 6	— 9	— 17	5 44
86 アンクル・トムの小屋	ストウ	後計	3 8	2 10	1 14	1 12	— 20	2 33	9 97
87 アンデルセン童話集	アンデルセン	後計	2 10	8 19	1 24	2 19	1 28	1 35	15 135
88 クリスマス・キャロル	ディケンズ	後計	1 4	4 12	1 8	5 18	— 12	2 27	13 81
89 あしながおじさん	ウェブスター	後計	2 8	5 25	— 9	6 25	3 23	5 37	21 127
90 二部物語	ディケンズ	後計	4 9	3 8	2 7	3 14	1 12	6 22	19 72
91 クオレ物語	アーチース	後計	2 5	4 13	1 11	1 22	1 10	2 25	11 86
92 ガリヴァ旅行記	スウィフト	後計	13 31	4 17	2 25	2 17	— 30	2 33	23 153
93 にんじん	ルナール	後計	3 9	4 18	4 16	4 21	5 26	4 32	24 122
94 ロビンソン・クルーソー	デフォー	後計	6 23	1 19	2 31	2 21	2 30	2 33	15 157
95 ドン・キホーテ	セルヴァンテス	後計	8 19	5 13	1 14	4 11	1 33	1 30	20 120
96 アンネの日記	フランク・アンネ	後計	1 1	2 6	— 1	3 7	4 14	6 20	16 49

## 読書指導の研究

書名	著者	後・合計	在籍生徒数						
			一男46	一女43	二男52	二女46	三男54	三女53	計294
97 車輪の下	ヘルマン・ヘッセ	後計	— 2	3 5	— 1	1 4	13 18	9 24	26 54
98 ふたりのロッテ	ケストナー	後計	1 2	5 21	1 7	6 23	— 9	1 19	14 81
99 散文詩	ツルゲーネフ	後計	— —	1 1	— —	1 1	— 2	— 2	2 6
100 赤毛のアン	モンゴメリー	後計	3 5	9 24	1 5	4 27	— 13	1 25	18 99
文学書の小計		後計	110 309	136 443	80 518	142 661	83 808	118 1,087	678 3,826
合計		後計	170 467	170 596	124 737	205 877	127 1,127	149 1,408	945 5,212

注 「後」は推せん後読んだ人数、「計」は推せん前・推せん後読んだ合計人数

### 2. 「読書サークル」の指導

本校の図書館は県下における優秀図書館となっている。それは蔵書数、蔵書の構成、利用率等にすぐれているが、一面読書指導の方は十分とはいえたかった。そこで昨年度から読書指導の一環として「良書百選」を生徒に示すなどして読書の指針を与えてきたが、今年はこれに加えて「読書サークル」による読書指導も取り上げることにした。「読書サークル」については昨年あたりから生徒図書委員の間でも相当要望されていた。つまり図書委員は図書館運営即ち図書の整理・貸出し・整頓等の面に多くかかわっているが、かかる奉仕的な面だけでは物足りない、読書会のようなものを開き、数多く書物を読んで読書生活を高めたいという希望があった。これは至極当然のことでもあるので、とりあえず図書委員15名（各クラス2～3名）と畠、岩倉両教官による第一回の会合が持たれた。

まず「読書サークル」の目的とか意義について話し合った。その結果次のようなことが確認された。  
 ①読書意欲を起させる。  
 ②話し合いによってともに考え、ともに理解を深め、又その技術も学ぶ。  
 ③そうすることによって、読書のあとをまとめる習慣をつける。更に、  
 ④人生の生き方、人格の形成に役立たしめる。  
 又⑤そこに至るまでに必要な、素直に感じる力、内容を正確につかむ力、正しく批判する力、あるいは読解力をたかめる。  
 ⑥そしてこの読書会の空気を全校に及ぼす。又その際むづかしく考えないで気楽に出てくる。人の話を聞いているだけでも意味があるということを強調した。

こうしてとりあえず、図書委員による「読書サークル」の形が一応できあがった。しかしこの時は1学期末であったので、種々の事情から最初の読書会は延び

延びになり、実際に読書会を開いた9月に入ってからである。以下順を追ってその概略を述べよう。

#### イ. 第1回読書会まで

前述の如く1学期末に「読書サークル」が発足し第1回の読書会のテキストは先生方にまかせるということであった。学期末の忙しさのため第1回読書会は8月3日の出校日に行うこととした。「良書百選」の中にもある「ビルマの豊饒」を終業式に間に合わせすべく10冊書店に注文した。よく読まれる図書の複本を揃えることはかねてからの念願でもあったので、これを機会に複本の整備にも乗り出した。しかし終業式には間に合わず8月3日に4冊をやっと入手した。これを順次に廻すこととしたわけであるが、休暇中のこととて連絡が十分に行われず、又会員のサークルに対する認識の不足と、それにともなう消極的態度が加って、結局休暇中には読書会を持つことができなかった。

#### ロ. 第1回読書会

2学期に入るや、夏休の失敗に鑑み、早々に読書会を開く準備を始め、9月9日やっと第1回読書会を開くことができた。この間テキストも6冊になり生徒の意欲も高まってきていた。集まった生徒は2・3年生で8名、教官2名。1年生の出席がなかったのは1年生には読書会ということの理解が困難であったためかもしれない。

まず初めての会であったので、この会をどのように進めて行ったらよいかについて話し合った。その結果は指導の教官に司会をやってもらい、自由に感想を話し合うということにした。しかし、どうしても固くなつたのか発言が活発に行われないので、司会の教官が指名して感想を述べ合うという形で始め

## 共同研究

た。指名されればすらすらと感想を述べ、初回としては割合に感想も豊富で、予想以上に円滑に進行した。この時の生徒の感想をまとめてみると概略次のようになる。

- ① 水島上等兵が帰国しないでビルマにとどまることを是とするもの、非とするものは賛否相半ばした。しかし、上等兵の気持には皆賛成である。
- ② 生徒達はあの作品を、人道的な立場からのみ眺めており、戦争の実体を全くといってよい程感じていない。これは作品自体にも一半の責任はあるとしても、やはり戦後の子として当然のことかもしれない。
- ③ 生徒達は水島上等兵ならびにあの部隊のことで、自分の身近かな問題と関連させて考える傾向がある。例えば、隊長の気持を戦争に敗れた隊長としてではなく、音楽を愛好する一個の人間として感じている。

総じて、生徒達にはすでに戦争の惨禍は感じられず、民主的なものの考え方方が徹底しているように思われる。

かくして第1回読書会が終ったが、この会で会員もその内容が分ったようで、会を開く前に比べて次の読書会に対する積極的な熱意を見せ出した。第2回のテキストとしては、皆の希望で「アンネの日記」に落着いた。10冊注文したが6冊しか届けられなかった。

### ハ. 第2回読書会

9月18日放課後、前回同様図書館会議室で行われた。3年生は全員出席で他の学年に若干欠席があった。第1回の会合で大体の要領が分っているので、すぐ会を進めるにした。「アンネの日記」は長いので全部読んでいない者もあったが、章を区切って各章毎に感想を述べ、最後に全体をまとめることにした。生徒はまだ進んで自分の感想や意見を述べる段階には至っていないかったので、前回同様、司会の教官が各自の感想を聞くというやり方で進めていった。そのうちに自発的に意見を言う者もぽつぽつ出てきた。この時の生徒の感想をまとめてみると次のようである。

- ① 隠れ家生活をしなければならなかった戦争の背景をあまり感じていない。
- ② アンネの精神的肉体的な発展発達については、大体同年輩であるので十分に理解し、特にアンネの気持については深い関心と同感があった。殊に女生徒の場合には、アンネへの全面的な傾倒が見られた。中には二度三度と繰り返し読んだ者もいた。

③ アンネのように強い意志を持って、力強く生き抜きたい。

④ アンネの後日譚を読んで同情の涙を禁じ得なかった。

このようにして第1回、第2回の読書会を開いた結果は非常に有意義である。ついては図書委員だけでなくもっと広げて、希望者を集めたいという意見が強く出てきた。一方、図書委員以外の生徒からも入会を希望してきた。これは最初から期待していたことでもあるので、ポスターをはり、「読書サークル」の会員を公募した。

### ニ. 第3回読書会

10月2日に開いた。今回は公募したためか参会者が非常に多く20名を越えた。正式の「読書サークル」の発足はこの時をもってあてるべきかもしれない。この回ではテキストとしてヘルマン・ヘッセの「車輪の下」を読むことになっていたが、新加入の生徒はほとんど読んでいなかったので、新会員のために改めて読書会の内容を説明し、併せて指導教官の読書についての体験談を話して散会した。これだけでも十分の意味が認められた。即ち教室で日頃接している先生とは、又違った親近感を持つただろうし、読書会はかたくるしいものではなく、おもしろいものであるという感じを抱いたようだ。

### ホ. 第4回読書会

10月10日、参会者21名。3年生が多く1、2年生は少なかった。低学年にとっては読書会が3年生を中心となり、ややむつかしいのかもしれない。今回は大分馴れてきているので、なかなかおもしろい意見や感想があり、会は2時間余りにも及んだ。生徒の感想のあらましは次の通り。

- ① なんといっても、最初の受験勉強時代が切実なものとして共鳴を呼んだようである。合格とわかるまでのいろいろした気持、その後の対照的なはしゃぎよう、又そこに描写されている自然の美しさ。翻訳ではあるがこの文章の美しさを指摘する生徒が相当あった。文章の技巧に関するところは今まで見られなかったことである。
- ② ハンスの強制された、換言すればしいたげられていた少年時代に対し、同情の気持が強い反面、彼の才能と選ばれた人としてのハンスに一種の羨望を感じるところもある。
- ③ ハンスの最後に対して、「もっと強く生きていてほしかった」という意見と「ハンスの一生はあれでよかったんだ」という意見とが相半ばし、男子には前者の考え方、女子には後者の考え方が多くいた。ある女生徒は「ハンスの死に方は偶然

## 読書指導の研究

であったが死は必然であった」と言った。又ある男生徒は「ハンスがかじやの親方となり、弟子の3人も持つて、たくましく生活してもらいたかった」と述べた。これなどは従来の文学鑑賞の考え方からすると、はるかに現実的な作品鑑賞であると思う。又女生徒の4名は、終りの方の靴屋の主人の姪のエンマの態度を批評し、「もっと姉のような心持でハンスを善導してやるべきだった」などとも述べた。その他実際に多くの意見や感想が述べられたが、新しい子供達の生活観が見られた。かくて盛会の中に第4回も終り、次回のテキストとして岩波文庫の「鼻」「芋がゆ」が選ばれた。  
(以上第4回までの経過については10月末の研究協議会で報告ずみである)

### ヘ. 第5回読書会

10月末の研究協議会、文化祭等で教官も生徒も時間が見いだせなかつたことから、又文章としてややむつかしい箇所もあるので考えながらゆっくり読ませた。延び延びになりやつと11月下旬に第5回の会合が開かれた。教官2名、男生徒7名、女生徒8名、感想のあらましは次の通りである。

#### a. 「羅生門」について

- ① 筋のおもしろさだけでなく、スリルめいたものもあって先を読みたくなる。
- ② やや陰気で冷たい感じのする文章である。
- ③ 老婆のあの毛髪を抜く態度をにくみかつとなるが、しまいにはあのようなことをした男の残酷さも、生きてゆくためには仕方がないのではないかと思うようになる。

#### b. 「芋がゆ」について

- ① 五位のような人間にはなりたくないが、あいう人間が社会に居てもいいような気がする。
- ② 利仁がわざわざ遠くまでつれて行ったことについて。④優越を示す。⑤真の厚意でなくからう。もし厚意があるなら、山芋を山のように積んでおおげさにしなくて、少しでよかったのではないか。だから真の厚意ではない。⑥こんな五位のような男もいるのだということを見せるため。
- ③ 狐について。④偶然である。⑤五位に対して利仁を偉く見せるため。

#### c. 「鼻」について

- ① 三つの作品の中では一番文章が練れていて、じょうずである。
- ② 内供の心理の動きに対して、これをよく観察していてうまく描写している。

- ③ 内供の悲しさには同情し、第三者の身勝手な利己心を批判しいやらしく思う。

以上第1回から第5回までの読書会についてのあらましを述べたわけであるが、第5回を終って感じたことを次に述べてみたい。第5回をもって「読書サークル」の基礎が定まり、生徒のサークルに対する態度も次第に積極的になり、進んで「読書サークル」をもり立てて、自分の意見を積極的に述べるという段階に達した。又読み方、考え方も初めに比べると余程深化された。今後はこれを土台にして、従来のような同じテキストによる感想発表だけではなく、2、3のテキストについて同時に意見を発表したり、詩の朗読・鑑賞・創作発表ならびにその合評という具合に、範囲・種類も次第に拡げて行きたい。しかし、ここ当分の目標は、各人が自分の考えを的確に表現することができるよう指導したい。

このようにして、やがてはサークル員だけではなく全校生徒に読書指導を及ぼしてゆきたい。

最後に、取り上げた作品の系列について一言したい。「ビルマの豊饒」は映画になったこともあり、読書感想文集などにもよく出ていること、更に戦争というものをどのように感じているかということも知りたくてこの作品を選んだ。「アンネの日記」は生徒の方から言い出したものでもあり、もう一つ戦争という同じ系列のものを読むのも比較になってよいと考えたのである。「車輪の下」は生徒の方から西洋の文学作品を読みたいと言ったことと、教科書などにもその一部がとられている作品でもあり、かたがた文学ものを読ませたいと思っていたことでもあった。「鼻」も生徒の方から日本のものをという希望も強かったし、個というものをよく見つめるものから出発しようと考えたわけである。次には対人、対社会的なものを考えている。

### 3. 国語科における読書指導

#### 一中学校3年における古典文学の学習

この報告は継続研究のものであり、昨年の研究集会で発表した資料(紀要第3集)を、今年の調査資料と比較し補正しながらその反省に基づき指導したものによるものである。

#### 1 指導目標

この調査および指導は、古典入門期における中学校生徒の読書指導の一つの試みとして実施したものであり、次のような目標を立てて出発した。まず、古典に対してどのような態度をもって接していたかということ、すなわち、従来の興味や関心を反省しながら、これからは古典作品に対しどのような気持

## 共 同 研 究

で対処するか——古典観をまとめ、また古典のもつ意義を理解させようとした。次にこのような興味や理解の程度を調査して、この時期に必要な古典教材を発見しこれらをいかに配列すべきかということ。この作品鑑賞の指導法とその配列について研究するところに目標があると考えられる。

### 2 指導の方法と順序

まず、古典の読書歴を調査して生徒の興味、関心の実態を把握した。その結果は、作品としては物語（昨年同様説話）が圧倒的に多く、日記、隨筆がこれに続いている。ただ、和歌、俳句などの作品への興味の多いことが違うところである。このような古典に対する興味が男子よりも女子の方が早く、小学校低学年から読み始めていることも昨年同様であった。しかし、読んだ後の処置はそのままになっているのが普通であって、この時期にあっては古典は興味ある読物として存在するだけでその意義は十分に果されず、古典教育は中学校の高学年にして教材とともに始まるということができよう。

次に、生徒に自由に古典を選んで読ませ、その読後感の作文を提出させて指導を加えた。選んだ作品は前の読書歴のそれと比べてあまり違わないが、教科書で既習したものが多かった。原文鑑賞は難しいので、そのほとんどが訳文を対照しているのはやむを得ない。しかし、それらの作品に対して興味を持って読んでいたことは、その感想文から考えることができる。

次に、これらの資料を参考にして文学の流れ——文学史の話を試み、特に史料と文学作品との違いを比較しながらその鑑賞の方法や、作品の主題の理解についても指導した。また、読書の結果、その感想発表の一つの試みとして読書会を開くことにした。生徒の希望を参考にして、竹取物語・枕草子・更級日記・平家物語を選び四つのグループに分けたが、これは昨年の作品と比較するためでもあった。そして、作品の理解と鑑賞と興味についてその感想をまとめさせ、その読書態度を反省させながら作品のテーマを把握させようとするのである。

### 3 指導の結果——読書会を指導して——

#### (一) 読書会の在り方

- ① 読書会の進め方は講義、またはNHKの録音教材などを主として作品鑑賞の方法、会の内容司会の仕方を教えた。
- ② 読書会においては、作品に即しつつ指導を加え、終ってから生徒相互の感想を発表させたりする。

③ 読書会終了後次の項目について調査をした。

#### I. 理解 II. 鑑賞 III. 興味 IV. 態度

(一) 古典をどのように読んだかの分析——特に更級日記について

① 読書……文章が短いためか一応全部を読んだものが多い(29%)。しかし、原文通読はなくやはり訳文を読むだけである。

#### ② 鑑賞

イ 理解……内容はやさしいためかわからないというものはなかった。通読は1回より2回の方がよく理解しており、2回読了した生徒は2名あったが、いずれもよく理解し得たと言っている。

ロ 鑑賞……概してよかったですとするもので9割5分までがそうである。そしてよい理由は、現代の社会との比較において言えるのであって、こうした時代のへだたっている社会に対して、変らぬ人（作者）の心に共鳴を得たとするものも案外に多い。古典の価値を論ずるなら、このように時空を超越して共感をよびおこすところにありはしないかと思われるのである。

ハ 興味……概してこの作品には興味があったと考えてよい。そしてその原因是、作者の心の深さにありとするもの、または主人公の性格・心理・感情の描写のすぐれているところ、また当時の社会状勢に対する興味からであり、この作品の中に終始流れている浪漫的精神を味わい、夢があり美しい作品であると感じている。

ニ 態度……読書会のためという目的で読んだものは別として、人間としての感動をもちたいという態度とか、その時代の様子・社会人の気持を知ろうという鑑賞態度が3割もあったことは注目すべきである。

以上の鑑賞を昨年の調査に比べると、批判的な態度は少なくなって、むしろ始めからりっぱな木だからとして読む真摯な態度が見られた、昨年の知的態度が多いのに比べて、今年のにはそうした情的な味わい方がまさっていたと見ることができ。そして、これら読者の興味をひいていた原因としては、時代の違いから自然と人物の動きや社会の習慣などに興味をもたせているが、現代とか離れているためよくまとめられず描写がやや複雑であると認めたものもあったのは、古典のもつ当然のことであろう。男子より女子の方がよく読

## 読書指導の研究

んでいたようであるが、最後に生徒の所感を引用して結びとしたい。

「文学に狂じる天才少女の面目はよく書けてい  
るとしても、物語にのみふける態度は現代的に理  
解されない。ただ、作者と乳母の別れは全く劇的  
なもので、この哀れさは時代を越えていつの世に  
も変らず真実なものであり、これを発見できたの  
は嬉しい」。

と述べている。誠に古典の価値はここにあるの  
であり、時代の上下の差なく永久に吾人の心に印  
象して残るものこそ価値の光を保ちつづけるもの  
であることを考えるべきである。

### (二) むすび

古典に対する理解・態度・興味はこの読書会に  
いたりいっそう深められたと言ってよい。

## 4. 理科における読書会指導

理科学習の指導では、実験・観察が重要な部門を占  
めることはいうまでもないが、一方で生徒が学習にあ  
たって資料を集め、事典を引き、科学雑誌などを購読  
することも、生徒が各自で知識をまとめ、知識を広め  
ていく意味で、これらを併行して指導していくことは  
確かに望ましいことであろう。この報告では、そのう  
ちの理科事典類についての読書指導の問題をとりあげ  
る。中学2年の「人のからだ」の単元のうち、伝染病  
・寄生虫・医薬品の小単元で、教材がちょうど参考図  
書を利用させるのに適していたので、「私たちの生活  
百科事典」(生活百科刊行会), 「理科文庫」(三省堂)  
「KAGAKU no GAKKŌ」(岩波書店), 「KAGAKU  
no ZITEN」(岩波書店) の四種を選び、巻数及び項  
目名、ページ数なども板書し、内容をごく簡略に説明  
し、調べようとする項目の探し方などもあわせて指導  
した。なお、一方の組(A組)では、実地に図書室  
で、書棚や書物の位置まで教示した。

その後中間テストとあわせて前述指定の四つの事典  
の利用度を調査した。調査方法は読んだ本の種類・読  
んだ項目・内容の略述・現物の書物をみせてその書名  
を記入させることなどにより、利用度の低いものから  
高いものに、0点から5点までの得点段階にして評価  
した。

この得点をA組とB組とにより平均点を出してみると、  
それぞれ2.29, 2.63であり、図書室で現実の事  
典を指示して指導した組が、ただ教室で授業の途中に  
板書して紹介した組に対し、別によく利用していると  
はいえない。全生徒を男女別に平均点をとってみると  
男子2.65, 女子2.23で、検定の結果からもたしかに男

子生徒の方が多く利用している。これは理科成績が女  
子よりも男子の方が若干よいことに一致している。念  
の為、第1学期の理科成績と、事典の利用度との相関  
を知るために、理科成績により上位群と下位群に分け  
無相関検定をしてみると、危険率10%で理科成績のよ  
いものがよく利用していることになった。

また、全生徒の読書歴、読書量を調べた調査から、  
これとの相関・および別に国語の1学期の成績との相  
関も調べてみたが、いずれも相関はない。

以上から、授業中に紹介した理科の事典類の利用生  
徒層は理科成績の優秀なものに限られ、一般の図書室  
利用度、あるいは読書能力の有無とは別の問題である  
と思う。理科は嫌いだが読書は好きだという生徒が、  
この機会によく読み、この機会に理科を好きになるよ  
うにといふとぐちをつかませようとしたが、その結  
果は思わしくなかったことになる。

## 5. 読書不振児の指導

### 1 読書不振児の抽出

5月に中学校2年の2クラス全員に対して読書調  
査を行った。この調査においては次のようなことを  
調べた。

- A 4月初めから調査時までに読んだ雑誌
  - B 毎日の新聞小説を読んでいたら新聞名と小説名
  - C 4月初めから読んだ本、その動機
  - D 小学校から現在に至るまでの主要読書歴（特に  
過去2年を精密に記入させる）
- (イ) 時期別の書名
  - (ロ) 特に感銘を受けた書物
  - (ハ) 読み方（精読か乱読か）
  - (ニ) 書物の撰択の仕方、読書の動機

以上の調査により、特に読書しない生徒8名を選  
び出した。特に読書しない規準としては、一応中学  
入学以来2冊以下しか読んで居ない者を探る事にした。  
抽出児の構成は男子6名女子2名であった。この抽出された8名を集めてグループを編成した。  
しかしこの際特に読書不振児だけを集めたと言う感じ  
を持たせないように注意した。この生徒達について  
知能検査、学業成績等を調べた結果、この8名はい  
づれも読書不振児とみなし得ることがわかった。す  
なわち読書能力だけが特に低い者、読書の基礎的技術  
の指導不足、あるいは読書環境の不整備などに原  
因がある者とみなされる。

### 2 読書不振児の診断

不振児の指導に当っては、最初に読書不振が何に  
由来するかを明らかにしなければならない。それゆ

え個人指導票（第一回中等教育研究会において発表のもの）を作り、読書不振の原因を明らかにするよう努めた。その診断の結果の概要は別表(1)である。又参考までに不振児の自課を調べてみた結果は別表(2)である。別表(1)によって明らかな様に読書不振の原因は一つでなく種々のものが複合している。きわ立った特徴としては根気強さを欠くもの8名中4名、テレビの観過ぎが8名中6名、落着きがない者8名中2名、家庭の教育の無関心が8名中3名、国語の成績評価1の者8名中3名、国語の興味がない者8名中4名などがある。

### 3 読書不振児の指導

前述のように抽出された8名を集めてグループを編成した。この場合グループ活動ではあるけれども出来得る限り個別的指導をするように努力し、主として高橋・酒井の2教官が担任教官とよく連絡を取りつつ指導にあたった。

まず最初に治療指導のための読書資料として適当な本を選定した。その際特に注意したのは教育的見地からの良書であると共に

(1) 生徒にとって興味のあるもの

(2) 適当な困難度を持つもつもの

を選ぶということである。上記の点を考慮して、最初に岩波少年文庫の「アーサー王物語」を選んだ。指導法としては前述のように、根気の欠如、テレビの観過ぎ等が読書不振の大きな原因となっているのであるから、読書の習慣をつけることが何よりも大切なことと考えられるので、どれだけでもよいから毎日必ず読むように申し渡し、毎日読んだページ数、読書時間を記入させた。そして週二回程集って面白かった点、わかりにくかった点、つかしかった言葉、読みのわからない文字、登場人物等について話し合った。そして全員が読み終った後で、総まとめの座談会を開いた。その結果文中の言葉の意味は大体わかる。筋をつかむことはかなり困難である。登場人物や事件など相互の関係はわからない生徒が大半であることなどが明らかになった。

以上の指導を通じて「アーサー王物語」は治療的読書指導のための読書資料としてはやや不適当であったと認められた。すなわち欠点としては、(1)外国の、しかもかなり古い物語なので、人物、背景となっている英國の風俗、歴史が生徒に親しみが無く、(2)翻訳であるため十分訳文がこなれていない。(3)物語の主人公が一人でなく、多勢の人物が種々の事件を雑然とひき起す点などが挙げられる。

次に畔柳二美の「姉妹」を読書資料として取上げ

た。この本の指導には次のような方法を探った。最初のうちは、8人全員に毎日読むべきページ数を規定(約20ページ)して読ませることにし「読書のまとめ」(別表3)と言う簡単な報告を毎日提出させることにした。そして毎日その報告を提出する時に、各個人に前日分の意味のわからなかった文、言葉、読みのわからなかった文字などについての指導を行いあわせて次の日の規定量を指示した。この報告用紙には感想文の記入欄を作ったがあまり詳細な感想は要求せず、又書かない生徒にも強制はしなかった。

このような指導法をしたのは、読後感想文は、生徒、特に読書不振児にとっては大変重い負担であり、生徒の間に「本を読むのはいいけれど、感想を書かざるから読書はいやだ」と言う声も多く聞かれたからである。それを書くことにより読書意欲をそぐような感想文ならばむしろ書かせない方がよいと思われる。しかし毎日長い感想文を強要しないとしても、読後の処理の重要性は言うまでもないことで、生徒の日々の進歩や誤はただちに評価されなければならないし、又それは教師の次の指導計画の参考になり、生徒への動機づけとなるから、ごく簡単に読書日記風に書かせたわけである。又書かない生徒には、提出時に口頭で「どこが面白かったの」「どんなことが書いてあったの」と言うように口頭で、読書のまとめや、次の日の読書意欲を喚起するように試みた。それと共にこの様な不振児の指導においては、生徒に自分が進歩したのだと言う自信を与えてやることが必要だと思われるので、毎日提出時に、進歩の状況をほめて激励してやった。

このような指導法をした第二の理由としては、毎日集ってグループ的な指導をすれば、どうしても個別的指導と言う点において欠ける所が出て来るのはないかと思われたからである。実際、治療的指導においては、個別的指導による面が非常に多いからである。もちろんグループとしての指導も必要なのであるから、折を見て適宜行うこととした。

このような指導法をした第三の理由としては、毎日グループとして、居残りをさせては、生徒のクラブ活動などの楽しい時間に食い込み、かえって読書への意欲を失わせることをおそれたからである。一例を挙げれば日本シリーズが行われているある日、グループとしての指導を行うために生徒を集めたのであるが、折柄教室のスピーカーに野球の実況放送が流されて来ると、途端に生徒達の興味が野球に集中し、読書指導の集まりがいやそうな顔をしたので、これ以上指導を続ければかえって読書意欲を失

## 読書指導の研究

わせるばかりだと思って指導を翌日に延期した。

われわれの指導は数日上述のような「読書のまとめ」による全員一日の読書規定量を同一にした指導を続けた後に、毎日提出される報告と、個別指導により生徒各人の進歩を評価し、その進歩の度合に応じて次の日の読書量を調節するようにした。

「読書のまとめ」にあらわれた意味のわからなかった言葉の中で、8名中4名以上がわからなかつた言葉は次の諸語である。

- ①呆然 ②三拝九拝 ③仰天 ④僕約 ⑤暗然
- ⑥やんしゅう ⑦うっふん ⑧奪還 ⑨抗議 ⑩無尽
- ⑪棟梁 ⑫催促

又読みのわからなかつた文字の中8名中4名以上がわからなかつた文字は次の通りである。

- ①美しい ②呆然 ③鋸 ④捕虜 ⑤威儀 ⑥今宵
- ⑦蒲團 ⑧訊問 ⑨催促 ⑩馬櫛 ⑪咆哮 ⑫奪還
- ⑬蟬 ⑭試練 ⑮援軍 ⑯眉 ⑰尻 ⑱点検 ⑲破損
- ⑳無尽 ㉑嘆息 ㉒棟梁 ㉓鯉日和

以上のような指導法により全員が読み終えた後に総まとめとして、どの程度に内容が理解されたかを明らかにするために、座談会を催した。この会では断片的な発言が多く系統立った発言はほとんどなかつた。この物語には四季の北海道の自然が生々と描写されてあり、時の流れが自然の移りかわりによって示されているのであるが、そのような手法、段落の切り方を意識した生徒は2名しかなかつた。又、人物をどの程度にまで理解しているかを調べるために、次のような簡単なテストをしたが全部正答した生徒は皆無であった。

- ①姉の行く学校の種類
- ②妹の行く学校の種類
- ③妹の友人近藤の家の職業
- ④姉妹の家の家族数
- ⑤姉妹の家の職業
- ⑥伊山先生のニックネームと教科
- ⑦姉妹の叔父の職業

次に感想文を書かせたが、主人公姉妹の性格も極めて漠然と見ているようである。例えば妹の俊子がどのような女の子であるかを判断するのに、俊子は父からこの様にみられているからとか、母からどのようにみられて居るからとか、ほとんどの生徒が1名ないし2名の人の眼に映じた俊子の姿から俊子像を作り上げて居る。父、母、弟、叔父、叔母、友人等すべての人間の眼に映じた俊子像を基にして、自らの判断を下す生徒はついに一人も無かつた。しかし作品の大意は5名がまとめることが出来た。

次にこの「姉妹」の指導を通じて、読書意欲、読書習慣の面から考察してみると、3名は読書に相当の興味を感じるようになり、時には規定量以上を読んでしまつこともある。又感想も積極的に記入するようになった。これらの生徒の家庭では、学校の指導に呼応して生徒を励まし、又意味、読みのわからない言葉を教え、日々の感想も積極的に記入するよう指導してくれた。又他の3名は規定量だけを読み、読書に対して嫌悪を感じないまでも積極的に読むようなことはなかつた。したがって読書報告もあまり積極的には記入しない。又、他の3名は規定量だけも読まない日がかなりあった。この2名は指導にもかかわらず、テレビ、算盤塾に放課後の非常に多くの時間をとられているようである。又C生徒にあっては、漢字が読めないためにいつそう読書意欲が減退している。

この対策としては早急の解決は得られないで、国語の力を増進するように国語科教官とも連絡をとつて気長に指導するつもりである。

以上の「アーサー王物語」「姉妹」の2冊の指導をした後は各生徒においてかなりの読書能力の差が出て來たので、以後は純然たる個別指導に切換えて各人の興味と読書能力とを充分考慮に入れて、各人それぞれの書物を選んで指導に当つた。これは生徒に広く読ませてどんな種類の本でも読めるように指導することを目標にしたものである。各生徒の選んだ書名を挙げると次の通りである。

- A ローラン物語
- B 埋れた青春
- C クリスマス・キャロル
- D 数の発展
- E 二十四の瞳
- F アンネの日記
- G ガリバー旅行記
- H 世界地理大系ドイツ編

指導法は「姉妹」と大体同様であるが、毎日の読書量は各人の自由とした。「読書のまとめ」を毎日提出させることは前と同様である。この指導が終った後の総まとめにおいても、ほぼ「姉妹」の時と同様の結果しか出なかつた。正しい読書技術を習得させることの困難さを痛感した。

この次には指導法を変え、毎日読書をさせ、読書日記を記入させた。その読書日記を教官が適宜見て指導をすることにした。読書日記の形式、量、及び書物の選択は全く各生徒の自由に任せた。各生徒の選んだ書名は次の通りである。

## 共同研究

- A ロンドン—東京5万キロドライブ
- B 聖徳太子
- C 真実一路
- D ダーシエンカ
- E 黒馬物語
- F あしなが叔父さん
- G 友情
- H 白鯨

まだ毎日読まない生徒もあり、読んでもその日に読んだページ数の記録とか、ごく簡単な筋しか書けない生徒も依然としてあるが、G生徒は作中の野島の心理の動きを克明に描き、自分の理解出来ない心理については疑問として提出し、教師の指導を求めた。この様な読書日記を書けるようになったのは、この生徒に関してはわれわれの指導がある程度成功したものと考えられる。

以上の指導を終えたところで冬休に入った。冬休には教官が生徒と毎日接し得ないので、次のような指導法をとることにした。すなわち各生徒が冬休中に自分の好きな本を一冊ずつ読むことを宿題にし、冬休後全員集って、一人ずつ自分の読んだ本の内容を皆に発表させることにしている。吾々の現在までに行った読書不振児の指導は、以上述べた通りである。この指導は種々な面で不十分なものであるが、今日までの指導を通じてわれわれが痛感したこととは、今日のようなテレビ、ラジオ等、娯楽要素の多

い環境の中で、まず読書の習慣をつけねばならぬであるから、学校生活、家庭生活を問わず生徒の日常生活の中に何とかして読書時間をとらねばならぬと言うことである。ゆえに家庭と連絡を密にして、徐々に一日の中に落着いた読書時間を持つように指導している。

こうした読書習慣を身につけさせると共に、より正しく、より深く読書出来るよう、今後は向上しない生徒は種々方法を研究して指導に当ると共に、読書不振の原因を除くように努力し、又かなり進歩した生徒にあっては、その進歩した読書技術が習慣となるまで根気よく時間をかけて、指導を継続していくつもりである。

## V 今後の見通し

個々のものについては、それぞれの項であらまし述べているので省略する。全体として、ここに得られた結果をもとに、さらに学習指導と読書指導の関連性を追求し、基礎教育の強化充実の具体的な方法を探求したい。更に全校生徒全般の読書生活を向上する方針を推し進めるつもりである。

本稿執筆者(共同研究者) :

岩倉 一 加藤 剛 加藤 貞夫 加藤 十八  
 倉田 有邦 佐伯 正一 酒井 炳久 鈴木洋一郎  
 高橋 恵亮 丹下 省吾 都篠 亨 戸苅 進  
 中野 満男 畑 実 原田 秀雄 兵藤 祚夫

別表 1

生徒名	根気	自主性	勉学意欲	落着	向性	学業成績	国語の興味	国語の評価	性格指導検査	家庭	テレビの観過ぎ	その他
A	×	×			外向的	中の下	×	3			×	
B(女)	×				非常に外向的	中		3			×	スポーツ好き
C(女)	×	×	×			下		1		放任	×	スポーツ好き 算盤塾で時間を取り過ぎる 漢字が読めない
D	×		×			下	×	1	欲求不満		×	情緒不安定
E					超外向的	中	×	3				スポーツ好き (テニス、ピンポン、陸上)
F		×				中		3	家庭不満 愛情不満 自己信頼感欠如	熱心	×	
G				×		中の上		3	やや 欲求不満	放任	×	忘れっぽい
H		×		×	外向的	下	×	1	欲求不満	放任		父死亡・家事手伝

読書指導の研究

別表 2 読書不振児の日課(放課後から就寝まで)

時 不振児名	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	テニス	帰途	勉強	夕食	勉強	強	テレビ	就	寝	
B (女)	手芸 クラブ	帰途	入浴	テレビ	夕食	テレビ	勉強	強	就	寝
C (女)	ソフト ボール	帰途	休息	勉強	算盤	塾	夕食	テレビ	就	寝
D	学校で 遊ぶ	帰途	遊ぶ	夕食	勉強	強	テレビ	就	寝	
E	テニス	帰途	夕食	休息	勉強	強	入浴	就	寝	
F	テニス	帰途	休息	夕食	テレビ	勉強	強	テレビ	就	寝
G	ソフトボール	帰途	テレビ	夕食	勉強	強	入浴	テレビ	就	寝
H	学校で遊ぶ	帰途	ラジオ	夕食	新聞	風呂	沸し浴	勉強	就	寝

別表 3

書名	時	月	日	時	分から	ページ	時	分まで	ページまで
次の項目の該当する所に○をつけなさい。									
A 分量									
多過ぎる									
少な過ぎる									
ちょうど良い									
C ハロイ									
決められただけ読んだ									
決められたより少なかった									
決められたより多かった									
B ハロイ									
続けて読みたいと思った									
続けて読みたいと思わなかつた									
A 感想 (簡単でよろしい)									
意味のわからなかつたところ									
読み方のわからなかつた									